

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273900082		
法人名	(有)ハロービジネス		
事業所名	グループホームふじき野		
所在地	〒285-0928千葉県印旛郡酒々井町ふじき野3-20-3		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々、職員、地域の方々ど「共に楽しく歩む」を目標にして、11年目を迎えることができました。昨年は大勢の方々と共に、十周年のセレモニー「おかげさまで10周年」を行うことができ、その場において勤続10年の職員を表彰することができ、とても誇りに思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に楽しく歩む」を介護目標とし、全職員で目標を共有し一丸となり取り組んでいる。今年度ホーム内で1名看取り介護を行い、職員5名で看取りチームを結成し、主治医、家族と連携し支援を進める事が出来た。また、ホーム開設後10年目という節目の年を迎え、10周年の記念セレモニーを行う事ができ、同時に勤続10年を迎える職員に対する表彰も行い、職員のモチベーションの向上につながった。今後に向けては、これまで培ってきた経験を活かし、利用者個々に対する個別ケアの向上を目指しており、一人ひとりの要望を丁寧に確認していく事や現状に即したケアプランの作成に力を入れて取り組んでいく事を目標にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『共に楽しく歩む』という理念に基づき、利用者、職員、地域住民と一緒に歩むという思いで努力を重ねている	ホームの介護目標に「共に楽しく歩む」を掲げ、スタッフルームの目につく場所に掲示し職員に周知している。介護目標は利用者、職員、地域住民が一体となって楽しむという思いを込めて作成し、全職員で共有し日々の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の要望を聞き、入居前と同じ地域の方々とのふれあいが保てるようサークル活動等に利用者と一緒に参加させていただいている	地域住民や関係機関とは良好な関係が築かれている。地域行事の際には招待を受け、利用者と共に参加をしたり、また、入居前から通っている地域のサークル活動に利用者が継続して参加する等、地域とのつきあいは良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要請に応じて認知症のケアについての話し合いの場に出向いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っており、利用者のご家族、包括支援センターの職員さん、酒々井町の町議会議員さん、地域住民さんに、ご参加いただき、有意義な意見交換ができています	運営推進会議は2～3ヶ月おきに定期的を実施している。会議には家族代表、地域包括、地域住民、町議会議員の参加を受け、介護報酬の改定の件や外部評価を議題に挙げ、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場とは常に密接な関係を築いており、相談にのっていただいている	町役場の担当者とは良好な関係が築かれている。浴室にリフトを設置した際に、町の担当者から国の助成金が受けられる情報を頂く等、協力関係を築き、有益な情報を得る事ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ヘルパー会議等で身体拘束をしないケアの重要性を話し合い、身体拘束しないことを全ての職員に徹底している	ヘルパー会議を月1回の割合で開催し、会議の中で身体拘束をしないケアの重要性について職員に周知している。現状玄関の施錠も含め身体拘束に繋がる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待防止の徹底を図っている。また、今まででそのような行為は一度もない		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の包括支援で様々な勉強会が企画されるので参加させていただき知識を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を含む全てのことに十分な説明を心がけ理解していただけるよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由に投函できる投書箱の設置や、第三者機関として包括支援センターさんに苦情受付窓口になっていただき、苦情も含めて気軽になんでも話せる体制を築いている	家族や来訪者の方が自由に投函できる「投書箱」を玄関先に設置し意見や要望を表出できる機会を設けている。また、家族には、意見等がある際にはいつでも気軽に相談できる旨を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヘルパー会議を定期的に行っており、積極的に意見交換を行っている 代表者も常に現場を見ているので職員の思いも把握している	法人代表も常に現場に顔を出し、利用者とのコミュニケーションを図ると共に、職員からの意見や提案も日常的に収集している。また、ケアの方法や業務の進め方については、ヘルパー会議の中で意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の能力を評価しており、職員も努力している 又、個々の能力や勤務実績に応じて、昇給もしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国から同業者が集まる「グループホーム大会」に参加させたり、他にも各種研修に出席してもらうなど勉強できる機会を与えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	酒々井町の社会福祉協議会が窓口となり、近隣の介護福祉施設間でつくられた「災害支援を考える会」に加入しており、その中で意見交換をして、交流を深めている		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでの状況をご家族から細かく聞き、情報収集し、ご本人、ご家族皆が納得して喜んで生活していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	説明や話し合いの場を何度も設け、どのようなケアを望まれるのか把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にお世話している思いはなく、ホームの理念に基づき『共に楽しく歩む』関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族・職員が「共に楽しく歩む」という関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのお友達がいつでも来訪できる環境をつくっており、入居前から趣味でやられていた習い事やサークル活動も継続しており、その際の送迎もしている	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、入居前から通っているサークル活動に継続して参加できるよう支援したり、利用者の友人宅への訪問等、在宅時と変わらぬ支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士、席を隣にしたり、気の合う人同士、どちらかのお部屋でおやつを食べたり、一緒にくつろげる環境を提供している		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居してからも、異動先の病院や施設に顔を出したり、色々な情報をいただいたり、退去後も良き関係を築いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活を細かく把握して、ご本人はもちろんご家族、ケアマネから一番に望むこと、また、訴えていることを読み取るよう努力している	利用者の思いや意向については、日常会話の中から引き出し、意向に沿った生活が送れるように支援している。また、ケアプラン作成の際にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題を丁寧に抽出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりを日々観察し、一人ひとりの残存能力を活かせるよう、日課表に基づき支援に取り組んでいる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	容態の変化に応じて介護計画書の見直しを図っており、ご家族にもその都度説明をしている	アセスメントで抽出した現状や問題点を踏まえ、改善するための目標及び援助内容と留意点を個別援助計画書にまとめている。個別援助計画書の作成にあたっては、職員、家族の意向を総合的に踏まえ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、一人ひとりの状態を介護記録書に細かく記載しており、必要に応じてご家族にも目を通していただいている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が一人ひとりを日々観察し、いち早くご本人の変化に気づき、その日の体調に応じ、日課の変更など柔軟なケアを心がけている		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんが毎月、入れ替わり出入りしていただき、三味線や唄などの余興をやってくださる利用者さんも笑顔が見られ、安心して楽しく生活できる住処となっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在の提携医療機関とは二十四時間いつでも相談できる環境にあり、ご家族も安心してまかせていただいている 毎月の往診の回数も増え、入院時等の対応も迅速で満足している 今後はホームでの看取りケアにも力を注ぎたい	適切な医療が受けられるよう、提携先医療機関による往診が週2回あり、担当医とは24時間連絡が取れる体制にあり、急変時にも迅速な対応が図られている。入居前にかかりつけ医の希望を取るが、現状全利用者がホーム提携先のクリニックをかかりつけとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携クリニックの看護師とは何事も気軽に相談できる関係にあり、常に情報交換している 看護に関しても数多くのことを教えていただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関と密な関係を築いているため、これまでも入院が必要になったときもスムーズに対応ができています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が来訪したときや、運営推進会議の際に最期にどのような看取りを希望されているのか要望をお聞きして把握している ホーム内で安心して最期を迎えられるよう看取りケアも充実させていきたい	重度化した場合や終末期のあり方については、家族会開催時に、家族の方から要望を伺っている。また、ホームで生活を送る中で重度化が進んだ際には、今後の方針について、職員、家族、主治医を交え検討することとしている。	今後に向けては、重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、重度化や終末期に向けた方針が共有されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	それぞれのマニュアルがあり、全ての職員が理解し対応を把握している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	酒々井消防署の協力のもと、火災時の避難誘導や消火訓練を定期的に行っている また、社会福祉協議会が窓口となり立ち上げた「災害支援を守る会」の会員になっており、地域の災害マップなどをつくり定期的に災害時を想定した話し合いを行っている	消防署協力の下、夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。また町の「災害支援を考える会」にも加入し、会合への出席や地域の災害マップ作成等に関わっている。	

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご自身が一番好きなお名前の呼ばれ方をお聞きして、呼び方やお声がけに配慮して喜んでいただけるように心がけている	利用者の名前をお呼びする際には、利用者本人が呼んで頂きたい呼び方でお呼びしているが、利用者の人格を尊重し、声かけ等においても不適切な対応にならないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でそれぞれが得意なこと、優れていることをお手伝いしていただくことで、自信につなげたり、また、お誕生日会等で自己表現できる場を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の状態に応じて、昼寝の時間を設けたり、本人の希望をとりいれながら支援している また、利用者の考えを優先して支援できたか、職員一人一人毎日、自分自身問いかけてみるよう指導している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合ったヘアカラー（白髪染め）をしたり、プレスレットを身につけたり、個々のおしゃれを楽しんでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いができる方、後片付けが出来る方、それぞれの適正に合わせて参加できるよう心がけており、季節ごとの特別メニューの時には一緒に楽しむ笑顔が見られる ただ、年月と共に容態の重度化が進み、以前できていたことができなくなり、現状にむなしさを感じることもある	テーブル拭きや後片付けなど、利用者に無理の無い範囲で参加頂けるように支援している。食事を楽しむ工夫では、気の合う利用者同士で食事が出来るように席順に配慮したり、時には外食に出かける等の工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり、食事と水分の摂取量を記載して把握しており、尿量も記録している 夜間の水分補給にも心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回毎食後に口腔ケアを行っており、定期的に提携している歯科検診も受診している		

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットやおむつ使用の方でも、排泄のパターンを把握してトイレ誘導を行っており、トイレでの排泄に心がけ、おむつ無しで過ごせるよう目指している	リハビリパンツを利用している利用者の方にも、排泄時には定時の声かけや誘導によりトイレへ誘導し、トイレ内で排泄できるように支援している。利用者の排泄状況は、個人別の「介護記録内」に記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便となるよう食事や水分量に気をつかい、身体を動かす運動にも心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望で、毎日でも入浴したい人は毎日入浴することもできる環境を整えている。ただ、病気の進行と共に拒否される方が多くなっており、楽しく喜んで入浴していただくにはどうしたら・・・と職員は知恵を出し合い支援している	週に4日入浴日を設け、利用者の体調や要望に応じ入浴できるように支援している。浴室内にはリフトを設置し介護度が重い方でも、安心して安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の居室とは別に、「和の間」という和室があるので、一人一人のその日の体調を観察し、昼間でも横になりたい人はいつでも昼寝や休息をとってくつろいでいただける環境が整っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理には細心の注意を払っており、薬の変更が行われた場合等には、容態の変化を観察し、細かく記録するよう徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ一人ひとりの能力に応じて出来ることを役割分担しており、やってもらうことで自信につなげている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で行われている習い事に、毎週送迎しており、ご本人やご家族にも満足していただける支援に努めている。本人も笑顔で毎週いきいきと通われている	入居前から通っているサークル活動への参加や地域行事への参加、また天気の良い日にはホーム周辺の散歩やホームの庭にあるテーブルを使いお茶を楽しむ等、戸外で活動できる機会も提供している。	

グループホームふじき野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理出来る方は、ご自身で所持していただき、定期的にご本人と一緒に所持金チェックを行い、ご家族にも変動があれば報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけたり、又、外からかかってきた場合も本人につないで、会話ができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節ごとの飾りや、写真を飾ったりしている 例えばお正月は皆で書き初めしたものを、春はお花見に行ったときの写真を、七夕の時期は短冊に願い事を書いて笹に飾るなど、季節ごとの行事や雰囲気気を大事にしている	リビングには、季節ごとに装飾を工夫し季節感を感じて頂くよう工夫するほか、外出した際の写真を掲示し、利用者や家族の方が楽しむことが出来るよう配慮している。リビングの横に「和の間」を設け、利用者のくつろぎの場として有効的に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「和の間」という和室があり、皆がくつろげる憩いの場になっている 四季折々の景色も眺められるし、冬場はこたつを置き、そこでお一人や利用者同士でくつろぐいい空間となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、それまで使っていたなじみの家具や小物を持ってきていただき、その人らしい居室にして、個性豊かに生活できるよう支援している	居室内には自宅で使い慣れた家具や日用品の持ち込みを可能とし、居室内でも落ち着いて生活できるように配慮している。居室内は整理整頓が徹底され、日当たりも良く、快適性においても配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で行動するときにも迷ったりすることがないように、トイレの場所を「トイレ」「→」など大きく表記したり、一人ひとりの居室にもそれぞれの表札をつけるなど工夫している		